

第3節 自然の利活用・環境整備

1 現状と課題

(1) 自然公園入込数

本県は、県北西部の山岳地帯を中心とした日光国立公園や、地域の特性を持つ8つの県立自然公園を有し、その総面積は約13万haであり県土の面積の約21%を占めている。

これらの自然公園には、県の内外から、四季折々の豊かな自然を楽しむため多くの人々が訪れている。

表2-4-19 県内自然公園入込数 (人)

年 度	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)
国立公園						
日光国立公園	15,679,361	16,209,644	15,423,196	9,919,740	9,895,087	10,824,738
県立自然公園						
益子県立自然公園	131,163	142,353	155,777	120,550	130,922	140,551
太平山県立自然公園	1,446,181	1,389,855	1,532,353	881,425	884,895	937,434
唐沢山県立自然公園	603,235	589,100	632,715	536,705	856,338	697,963
前日光県立自然公園	220,003	220,238	252,847	191,308	200,269	210,334
足利県立自然公園	1,278,102	1,293,802	1,133,338	1,280,161	1,349,362	1,309,055
宇都宮県立自然公園	1,502,127	1,638,383	1,591,994	912,472	811,325	1,141,785
那珂川県立自然公園	246,584	256,115	231,524	163,616	237,935	280,609
八溝県立自然公園	2,019,518	2,118,894	1,841,215	1,172,952	1,011,563	1,309,482

2 施策の展開

(1) 豊かな自然の利活用

ア 自然公園等施設の長寿命化

自然公園等施設の長寿命化を図るため、橋梁等の改修工事を行った。

整備箇所：那須弁天北温泉線車道、中宮祠園地

整備内容：橋梁改修、展望台塗装

イ 自然公園等施設の標識の多言語化

外国人観光客の受入環境の整備を図るため、標識の多言語化を行った。

整備箇所：中禅寺湖周回線歩道、須巻富士新湯線歩道、小丸山線歩道、沼原園地

整備内容：標識の多言語化

ウ 自然公園の情報発信の強化

県のホームページ等により、自然公園に関する情報発信の強化を図っている。

(2) 自然とふれあう環境の整備

ア 自然公園等施設の整備

自然公園の安全で快適な利用促進を図るため、歩道、園地等の整備や自然災害による被災箇所の復旧工事を行った。

整備箇所：中禅寺湖周回線歩道、那須高原線歩道、益子国民休養地（外22か所）

整備内容：歩道改修、園地整備等

イ 奥日光環境保全対策

国際観光地「日光」活性化事業で整備した日光中宮祠地区の県営駐車場、湖畔園地、イタリア大使館別荘記念公園、中禅寺湖畔ボートハウス等の管理運営を行った（表2-4-20）。

表2-4-20 施設利用状況の推移 (人)

年 度	29年度 (2017)	30年度 (2018)	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)
イタリア大使館別荘記念公園	53,485	68,149	55,559	39,517	30,895	44,404
英国大使館別荘記念公園	57,530	83,421	58,809	43,197	34,397	48,629
中禅寺湖畔ボートハウス	44,260	46,669	40,476	22,530	20,498	28,673